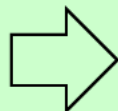


ほ場整備した水田で飼料作物を栽培し経営規模拡大 ～千葉 昭道～

経営体の概要

事業実施前：平成18年度
基幹作物：主食用米3ha、牧草2ha
経営面積：5ha



現在：平成30年度
基幹作物：主食用米1ha、飼料用米1ha、
WCS用稲6ha、牧草3ha
その他飼料作物の作業受託
経営面積：11ha

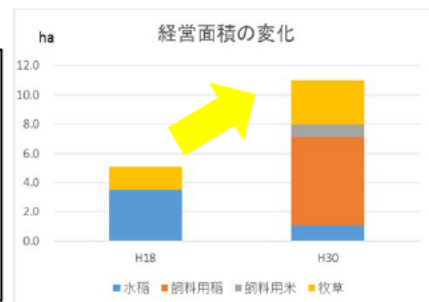
取組の経緯と経営転換のポイント等

事業を契機に、集落で転作を担う営農組織が設立されているが、本経営体は、一般に、集落営農組織で作付けするWCS用稲、牧草の栽培を集落営農組織から受託するとともに、飼料作物の栽培面積を増加し、飼育頭数を増頭することで経営規模を拡大している。平成18年度に、ほ場整備後の営農が本格化する中で、ほ場整備により10a前後の区画から0.5ha区画へ大区画化され、給水栓や暗渠も整備されたことで農作業の省力化が実現している。

営農改善のポイント

① 規模拡大・土地利用調整

事業を契機に、集落の転作をブロックローテーションで計画的に行うため、集落営農組織を設立した。本経営体が属する集落営農組織と集落内の作付計画を調整することで、本経営体は、集積・集約が進められたほ場を含む水田において、飼料作物の栽培面積の規模拡大に繋げている。



② 省力化

事業により、農地が大区画化し、集積・集約が進められたことで、草刈り作業の効率が良くなり、給水栓も整備されたことから用水管理も省力化している。ブロックローテーションで作物が集約化されたことで、集落の農家とWCS用稲、飼料用米の共同播種やラジコンヘリによる防除作業が行えるようになった。



③ 作物の変化

事業を契機に農地を借り受け、規模拡大するとともに、牧草のほかWCS用稲、飼料用米についても集落内の栽培を受託している。

事業で給水栓や暗渠が整備されたことで、水稲、飼料作物の収量、品質が向上している。



事業概要

事業種：国営農地再編整備事業
関係市：奥州市
受益面積：1,352ha
事業期間：平成10年度～平成22年度
事業目的：区画整理
主要工事：区画整理1,090ha、農地造成10ha
農道L=8.2km、排水路L=4.3km

位置図（岩手県）



<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
電話：022-263-1111
(内線4460)

(平成30年度調査時点)